

施工要領書

■製品名：鹿田室礼「ココモザイクタイル」（有機系弾性接着剤張り工法）：株式会社鹿田産業製

1. 工法の概要と目的

本工法は、有機系弾性接着剤を使用して内装物の面にタイルを全面接着する工法です。従来のモルタル張りに比べ、下地の変形や熱膨張の差による応力を緩和できるため、タイルの剥離・剥落防止に高い効果を発揮します。

2. 有機系弾性接着剤（例：フレックスマルチ）の取り扱い【最優先事項】

弾性接着剤の性能を最大限に引き出すため、以下の事項を厳守してください。

- **冬期の温度管理と湯煎（ゆせん）：**
 - 気温が低い時期は接着剤の粘度が高まり、作業性が低下します。接着剤の容器（チューブやパック）をそのまま40°C程度のお湯に浸けて温めてください。
 - **【注意】直接お湯を混ぜることは、硬化不良を招くため絶対に禁止です。**
- **基本特性：**1 液湿気硬化形の弾性接着剤を使用し、現場での水の練り混ぜは行わないでください。
- **硬化促進の対応：**低温により製品が反り、下地への圧着保持が困難な場合は、メーカー指定の硬化促進用添加材を混合して初期接着力を高めてください。
- **塗布方法：**
 - 10 mm程度のクシ目ごてを用い、壁面に対してこてを約60°に保ってしっかりクシ目を立ててください。
 - クシ目はタイルの裏足（溝）と直交または斜めに交わるように立て、付着面積を確保してください。
- **汚れの除去：**接着剤でタイル表面が汚れた場合は、硬化する前に有機溶剤（シンナー等）を染み込ませたウエス等で速やかに拭き取ってください。

3. 製品（ココモザイク）の特性と施工上の注意

- **天然素材の特性：**本製品は天然素材を使用しているため、製品に「反り」が生じている場合があります。これは素材固有の特性であり、不良品ではありません。目地幅は推奨3～5 mmです。
- **圧着作業：**
 - 反りがある場合は、手で十分に揉み込んだ後、たたき板や振動工具（ヴィブラート）を用いて確実に圧着してください。
 - タイル裏面への接着剤の付着面積が60%以上（理想は100%）かつ均一であることを確認してください。
 - モザイクタイルの接合部より、接着剤が表面に漏れ出ないように、接着量は適切に調整ください。

4. 下地の準備と調整

- **下地状態：**下地面のゴミや埃を清掃し、十分に乾燥させてください。
- **不陸調整：**
 - 1mにつき3mm以内の精度を確保してください。
 - コンクリートの段差や不陸（1～10mm）がある場合は、専用の有機系下地調整塗材を使用して調整してください。

5. 目地詰め・清掃

- **作業タイミング：**弾性接着剤が完全に硬化し、タイルが動かないことを確認してから開始してください。
- **注意事項：**
 - 弾性接着剤張りは下地側への吸水がなくなるため、目地材が白華（エフロ）しやすい傾向があります。
 - 目地詰めを行わない場合は、絶対に酸洗いをしないでください。接着剤に含まれる骨材が酸で反応し、変色の原因となります。

■輸入元／防災製品加工元：株式会社鹿田産業 福岡県八女郡広川町太田 428

2026.2.1 作成